

2013 旭硝子財団 助成研究発表会

7月29日、ホテルグランドヒル市ヶ谷において、助成期間を終えた研究プロジェクト84件の成果発表、ならびに助成期間中の大型研究プロジェクト17件の中間発表が行われました。発表者をはじめ、現在研究助成を受けている研究者や当財団の選考委員、ご来賓など、多くの関係者にご出席いただきました。

開会にあたり、田中理事長の挨拶に引き続き、高橋滋選考委員長（一橋大学教授）から開催にあたっての趣旨

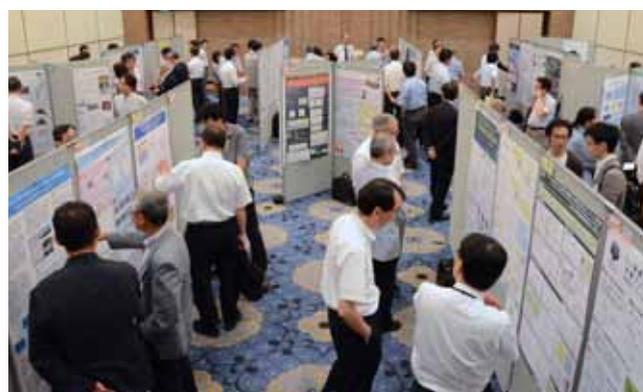
説明が行われました。その後、専門分野ごとに夕方まで3つのセッションに分けて、3分間スピーチとポスターによる研究発表が行われました。

それぞれのポスターの前では、専門分野の異なる研究者が集まって活発な意見交換が行われました。得られた成果についてだけでなく、今後どのような方向に研究を進展させるべきかといったことについて幅広くディスカッションが行われ、新たな学術協同関係が生まれるなど、大変に有意義な場となりました。

発表終了後には同じ会場で懇親会が開かれ、参加者の方々による交歓が行われました。



3分間スピーチ発表会場



ポスター発表会場

海外研究助成金贈呈式ならびに成果発表会

タイ・キングモンクット工科大学トンブリ校 (KMUTT)

昨年から研究助成を開始したキングモンクット工科大学トンブリ校において、7月3日に2回目の贈呈式と初めての成果発表会が開催されました。Bundit Thipakorn 副学長による選考経過の説明、Sakarindr Bhumiratana 学長と田中理事長からの挨拶に続いて、新規助成対象者6名の研究予定内容の紹介や贈呈状の授与が行われました。その後、昨年の助成対象者3名の研究成果が発表されました。



Sakarindr 学長による挨拶



贈呈式会場にて Sakarindr 学長、田中理事長と助成金受領者

タイ・チュラロンコン大学 (CU)

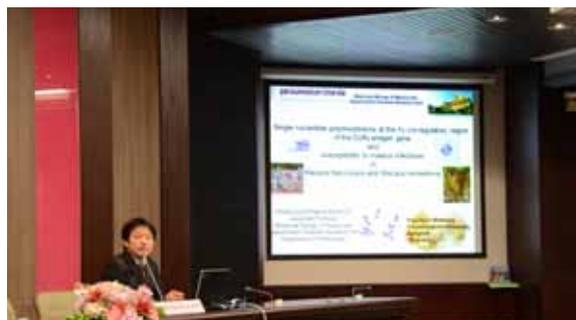


贈呈式会場にて Pirom 学長，田中理事長，助成金受領者と関係者

7月2日、チュラロンコン大学 Chamchuri 4 Building にて、研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。田中理事長と Pirom 学長からの挨拶に続いて、今年度の助成対象者 10 名に贈呈状の授与が行われ、続いて 2013 年から 3 年間の研究助成実施についての覚書が取り交わされました。セミナーでは、Kamthorn Pruksananonda 教授による胚盤胞から作成したヒト幹細胞に関する記念講演に引き続き、3つのセッションに会場を分けて、合計 12 件の研究成果が発表されました。



Pirom 学長と田中理事長による MOU の取交し



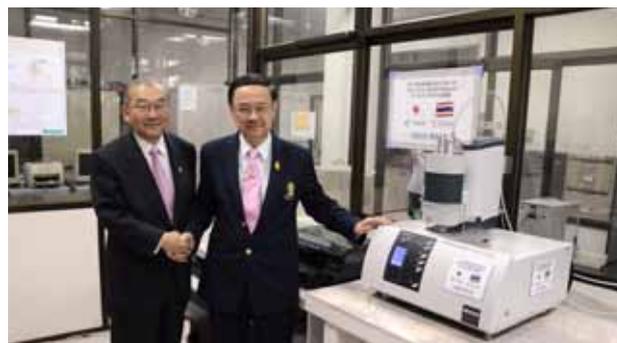
セミナーでの発表

<旭硝子財団から CU への 30 周年記念品の贈呈>

チュラロンコン大学への研究助成は 1982 年に始まり、2012 年で 30 周年を迎え、今年で第 31 回目の贈呈となりました。これを記念して、旭硝子財団は幅広く学内で使って頂ける研究設備として、ドイツ Netzsch 社製 STA4449F3 型熱分析計を寄贈しました。本装置は本年 3 月に Scientific and Technological Research Equipment Centre に設置され、稼働中です。7月2日の田中理事長の訪問を機会に、贈呈のセレモニーが行われました。



記念品贈呈式 (Pirom 学長と田中理事長，関係者)



寄贈された熱分析計

インドネシア・バンドン工科大学 (ITB)

6月28日、バンドン工科大学の講堂において、研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。学長の Akhmaloka 教授、田中理事長の挨拶に続いて、助成対象者16名に贈呈状が授与されました。Akhmaloka 学長と田中理事長との間で2013年から3年間の研究助成実施についての覚書が取り交わされました。引き続き、研究期間を終了した15件のプロジェクトの研究成果発表が行われました。



田中理事長による贈呈状の授与



助成金受領者と Akhmaloka 学長、田中理事長



研究成果発表会でのプレゼンテーション



Akhmaloka 学長と田中理事長による MOU の取交し



Akhmaloka 学長による挨拶

<ガネシャ・ウィルヤ・ジャサ・アディウタマ賞の受賞>

旭硝子財団から ITB への 25 年間にわたる研究助成活動に対し、Akhmaloka 学長名でガネシャ・ウィルヤ・ジャサ・アディウタマ賞が贈呈されました。7月3日、古川事務局次長が Akhmaloka 学長より書状と記念品を拝受しました。

